

株式会社ツムラ


2014年3月期第2四半期

決算の概要

2013年11月8日(金)

代表取締役社長

加藤 照和



2014年3月期第2四半期決算

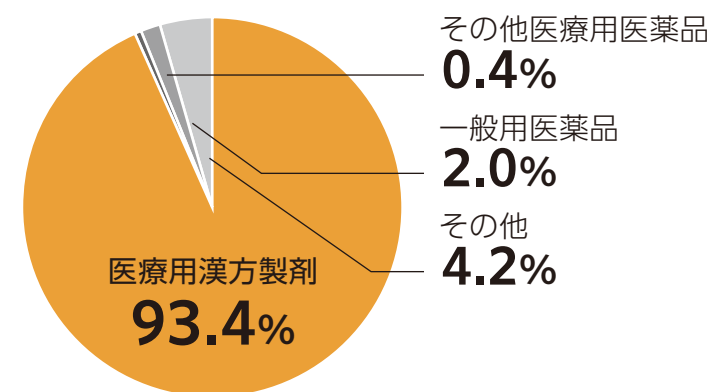
2014年3月期第2四半期連結決算の概要

(百万円)

	計 画	2013年度2Q	計画比		前年同期比	
			金 額	増減率	金 額	増減率
売上高	54,100	53,398	▲701	▲1.3%	2,349	4.6%
営業利益	11,200	10,366	▲833	▲7.4%	▲667	▲6.0%
経常利益	11,400	10,965	▲434	▲3.8%	▲10	▲0.1%
四半期純利益	7,400	7,069	▲330	▲4.5%	184	2.7%

	計 画	2013年度2Q	2012年度2Q
営業利益率	20.7%	19.4%	21.6%
配当金 (1株当たり)	32円	32円	30円

売上高構成比



第2四半期決算のポイント

売上伸長するも原材料価格上昇等により増収減益（営業利益・経常利益）の決算
売上高・利益ともに上期は計画未達だが、営業活動実績の今後の成果を見込み、通期業績予想は変更せず

連結売上高 **53,398**百万円 計画比 ▲1.3% 前年同期比 +4.6%

- 主力の医療用漢方製剤は、計画比17億円未達、前年同期比15.2億円増加
- 為替変動による連結決算上の内部取引差額の影響で、売上高が9.3億円増加

営業利益 **10,366**百万円 計画比 ▲7.4% 前年同期比 ▲6.0%

営業利益率 **19.4%** 計画比 ▲1.3pt 前年同期比 ▲2.2pt

- 売上原価率は34.8% 計画比0.6ptアップ、前年同期比1.3ptアップ →P7「売上原価率分析」
- 販管費率は45.8% 計画比0.7ptアップ
販売関連費用の増加、研究開発費（育薬・国際開発）の増加等により前年同期比0.9ptアップ

経常利益 **10,965**百万円 計画比 ▲3.8% 前年同期比 ▲0.1%

- 円安による為替差益（中国子会社への貸付金）を営業外収益に計上

四半期純利益 **7,069**百万円 計画比 ▲4.5% 前年同期比 +2.7%

売上高の状況分析

医療用漢方製剤129処方への販路別売上割合

Hospital (HP) 100床以上の病院 (勤務医・研修医)	General practitioner (GP) 100床未満の病院 (勤務医) 診療所 (開業医)
約20%	約80%

- HP (特に**臨床研修指定病院**) は開拓余地が大きい
- 研修医→勤務医となる過程におけるプロモーションの効果
- 漢方製剤を扱う当社MRは全診療科にアプローチができる強み

重点施策

- ①臨床研修指定病院 (含：大学病院) における初期研修医向け漢方勉強会
- ②臨床研修指定病院 (含：大学病院) の「全診療科」における漢方説明会

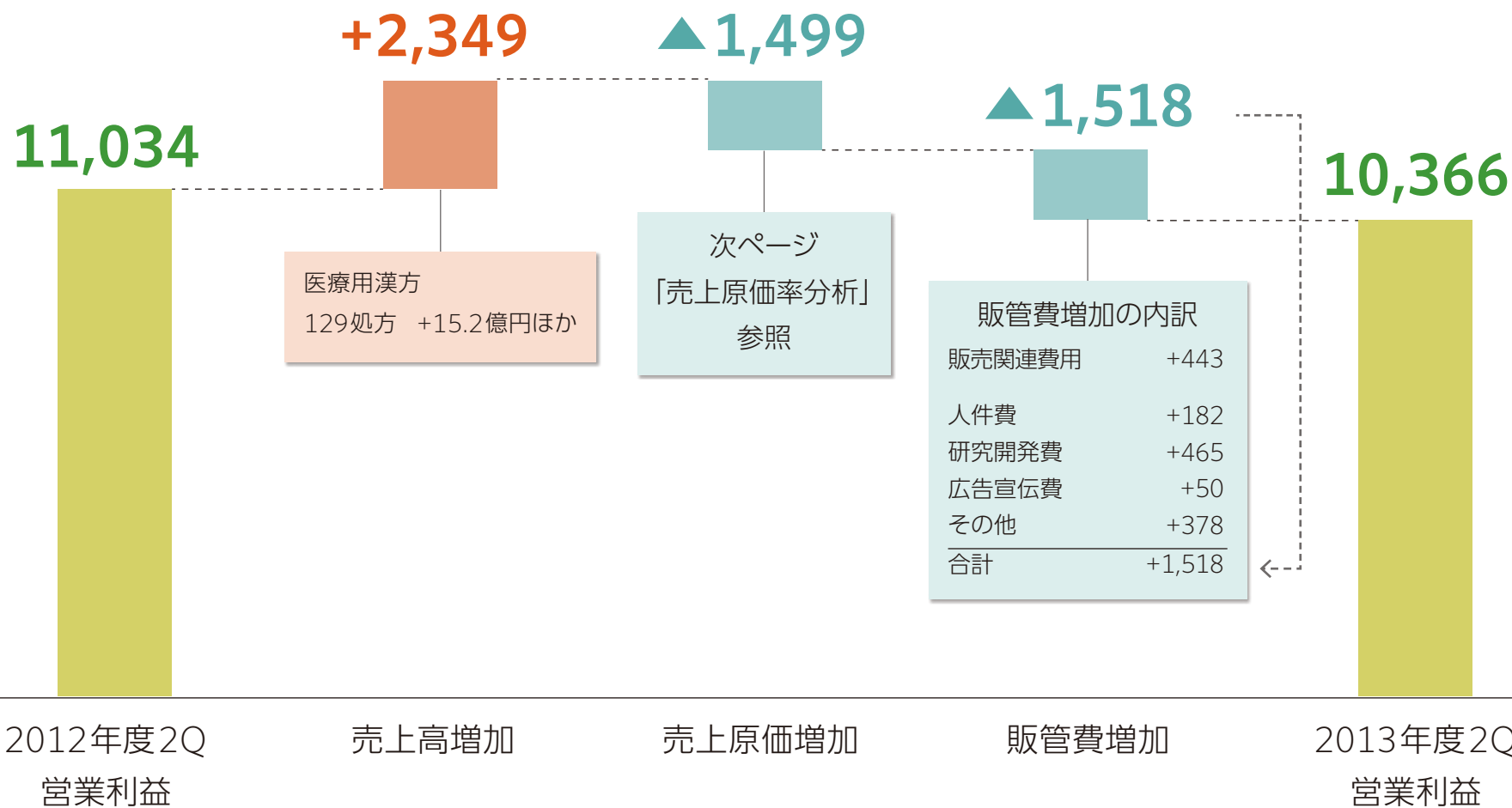
将来の漢方市場拡大につながる重要な活動

活動の結果：第2四半期の伸長率 (実売ベース)

- HP4.1%
- GP3.9%

営業利益の増減要因

(百万円)



売上原価率分析

- ・ 計画比 計画 **34.2%** ▶ 2013年度2Q **34.8%** **0.6pt増**
 為替変動による連結決算上の内部取引差額の影響、未実現利益などにより0.6pt増
 為替変動の影響を除く売上原価率は34.0% (計画の範囲内)
- ・ 前年同期比 2012年度2Q **33.5%** ▶ 2013年度2Q **34.8%** **1.3pt増**

内訳

要因	影響度
生薬価格高騰	1.8pt
為替影響	1.0pt
その他 (生産性向上等)	▲1.5pt
計	1.3pt

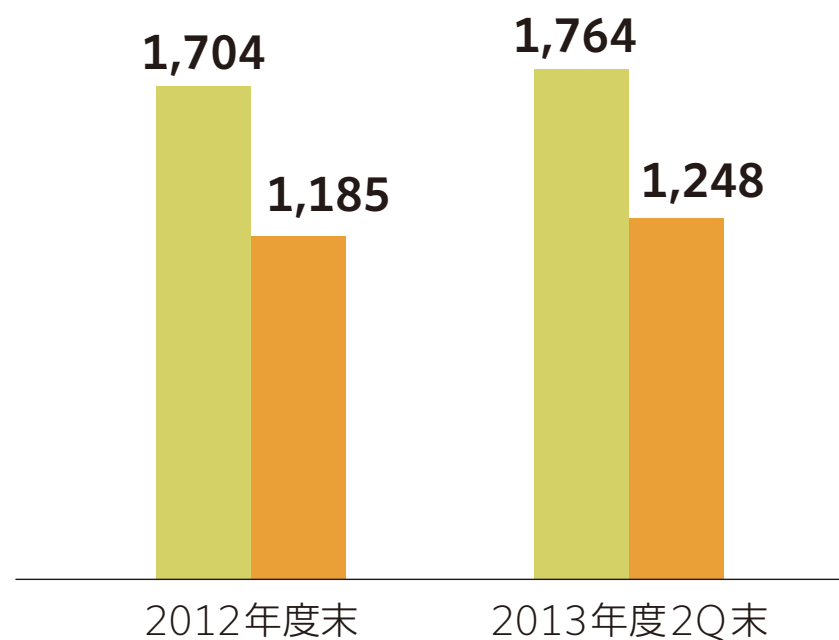
たな卸資産の増加分析

(億円)

B/S	2012年度末	2013年度 2Q末	数量増による 影響	生薬単価による 影響	為替による影響	前期差
たな卸資産	355	406	30	8	13	51
(製品)	68	82	11	3	0	14
(仕掛品)	83	91	4	4	0	8
(原材料)	203	232	15	1	13	29

財政状態

B/S (億円)



資産合計
 純資産合計

総資産 +59.7億円

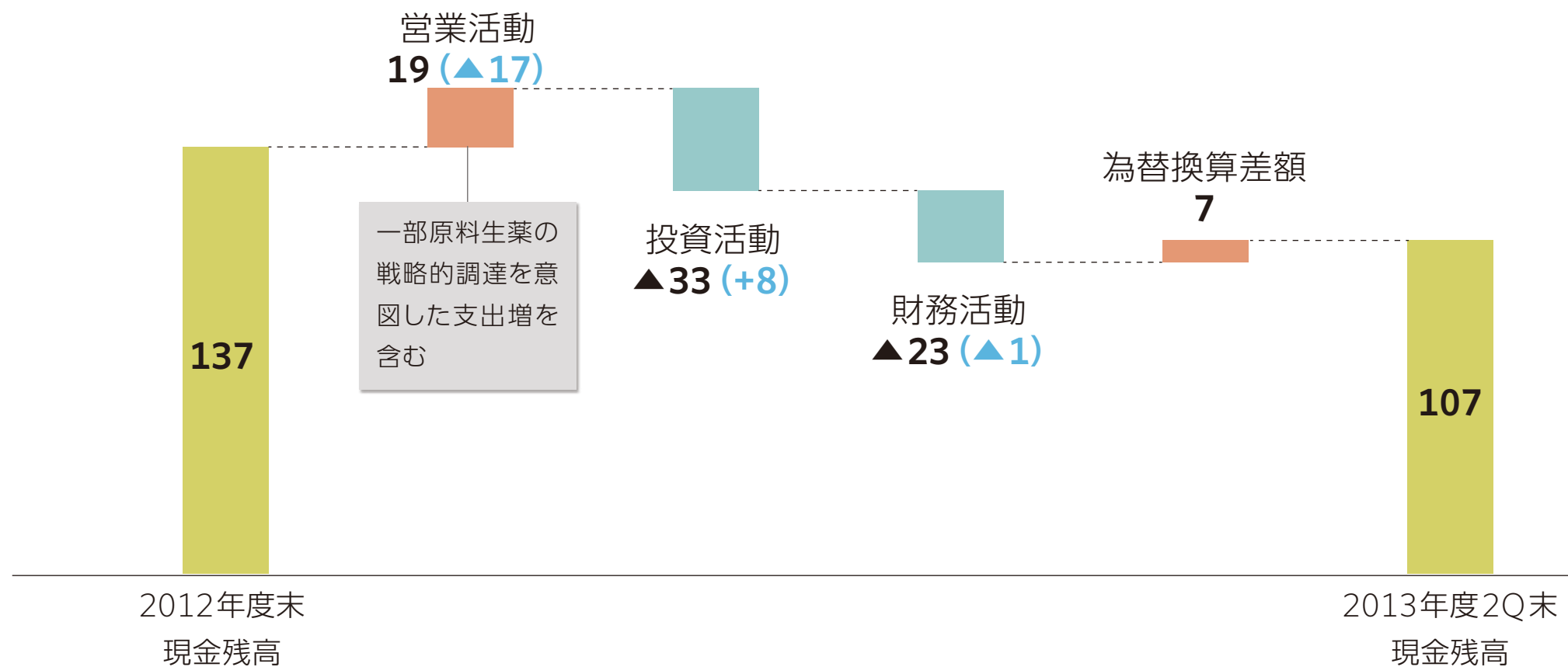
主な増減要因	
現金及び預金	▲30.0
売掛金・受取手形	▲9.6
たな卸資産	+50.5
前渡金	+28.1
有形固定資産	+16.7

自己資本比率

2012年度末	2013年度2Q末
68.6%	69.7%

キャッシュフローの状況

(億円)
(前年同期間比)

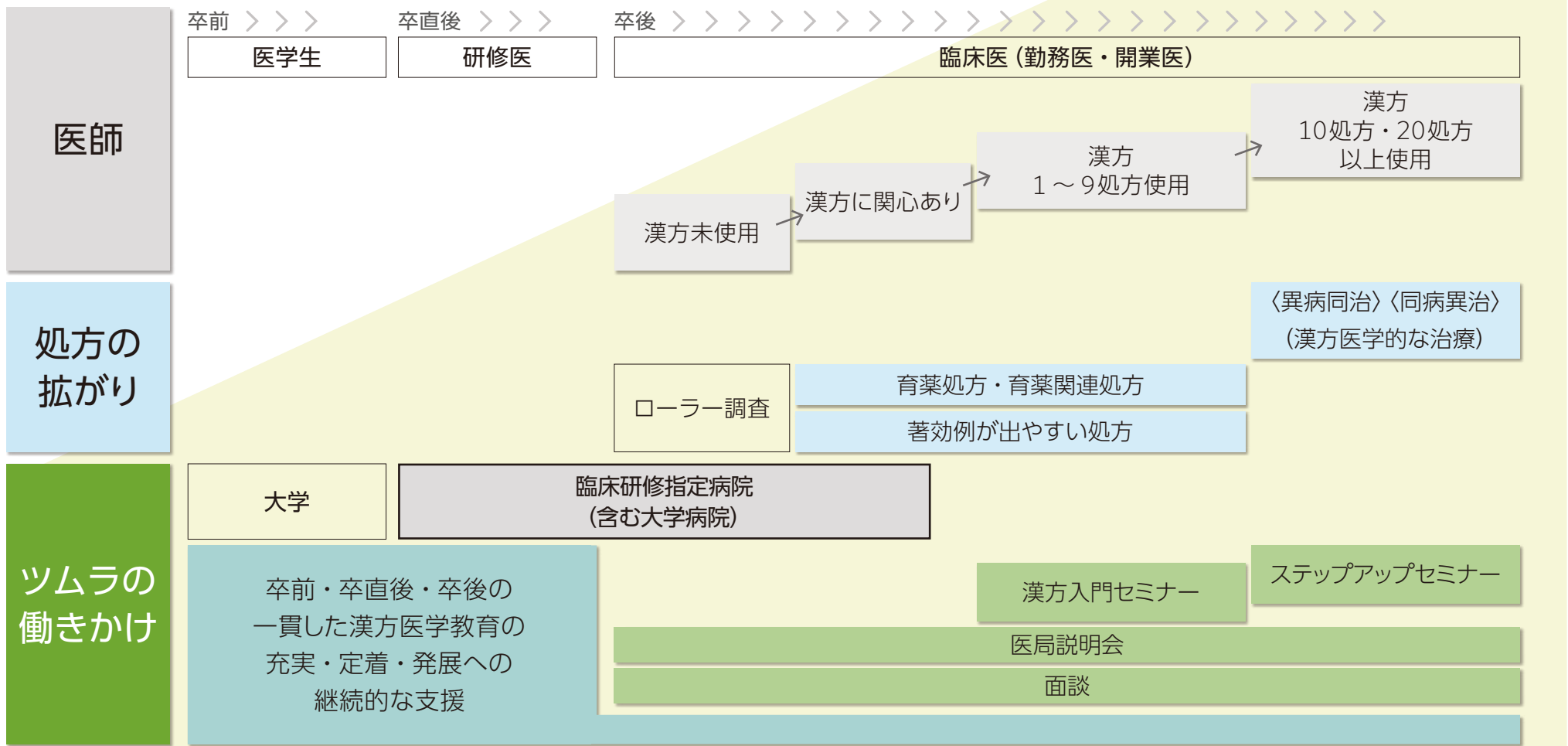


戦略課題への取り組み・進捗状況

1. 漢方市場の拡大
2. 収益力の強化
3. 財務・資本政策

日本国内における 医療用漢方製剤市場の拡大

国内のどの医療機関・診療科においても、
患者様が必要に応じて“漢方”を取り入れた
治療を受けられる医療現場の実現に貢献



漢方医学の確立～外部環境の変化～

2001年3月発表
文部科学省 医学教育モデル・コア・カリキュラム
「和漢薬が概説できる」

卒前



卒直後

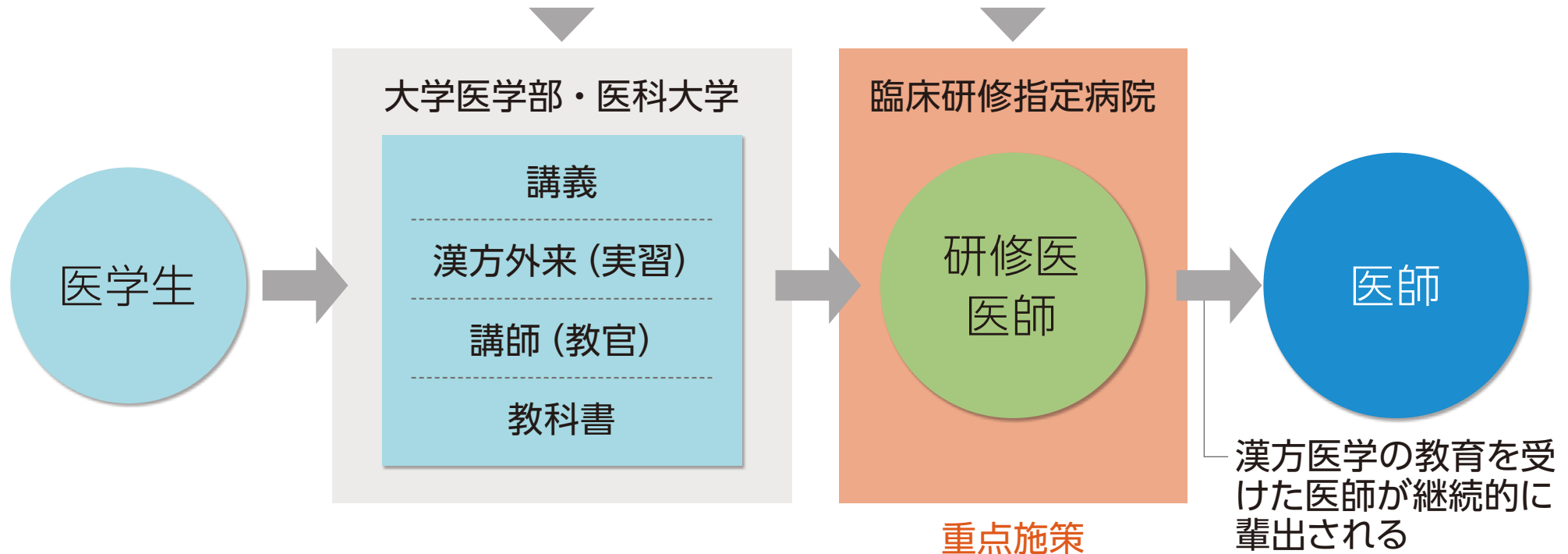


卒後



大学医学部・医科大学、臨床研修指定病院等における
漢方医学教育の充実・定着・発展

漢方医学セミナー

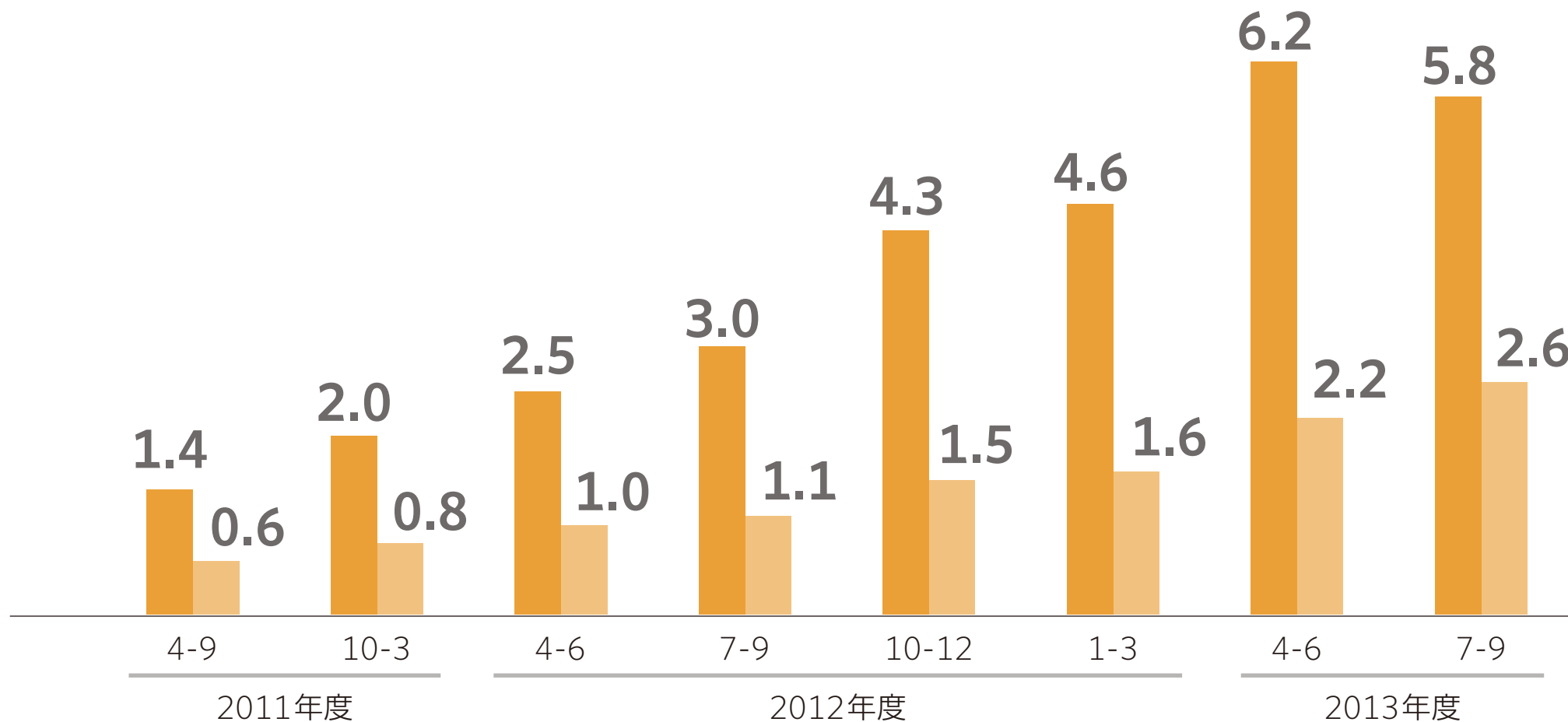


MR活動①

医療機関 説明会実施回数

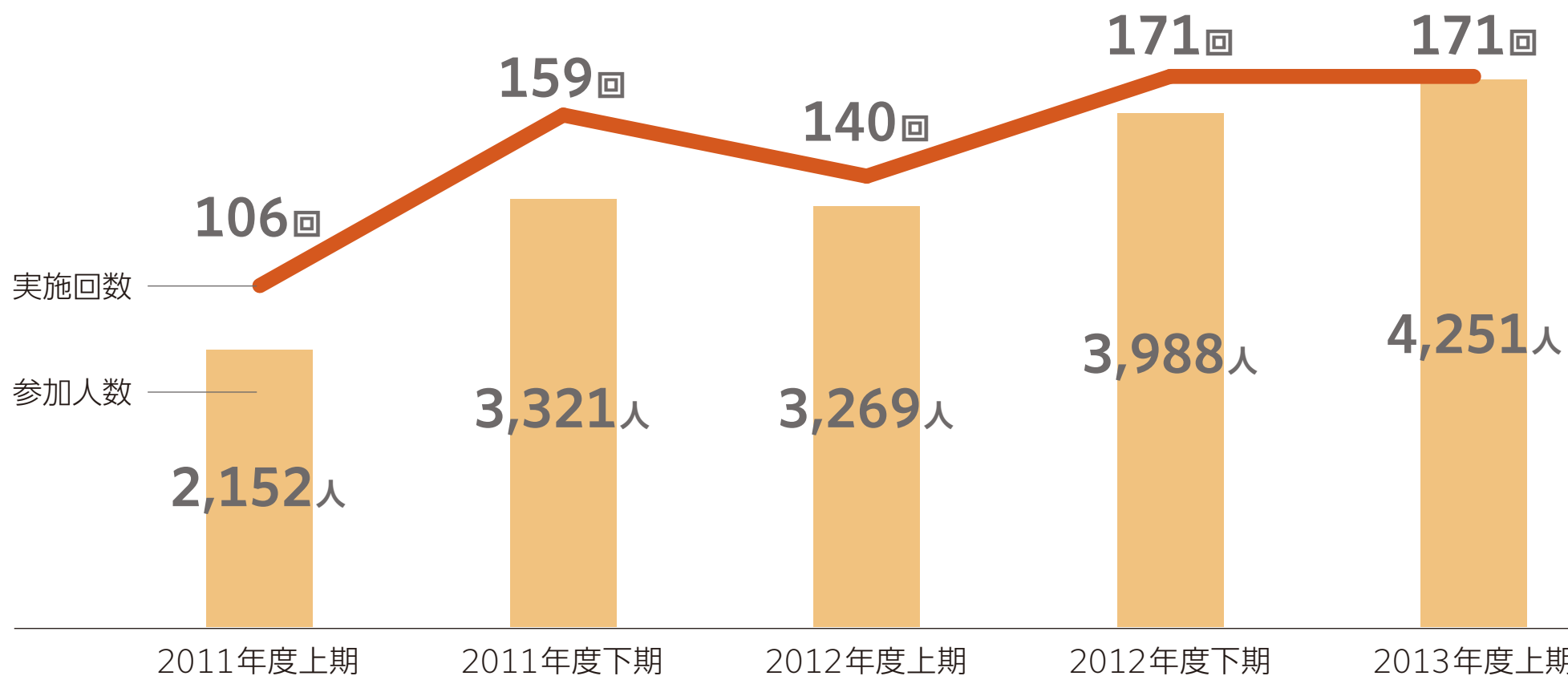
月／MR当たり

■ 全施設
■ 100床以上の病院 (HP)

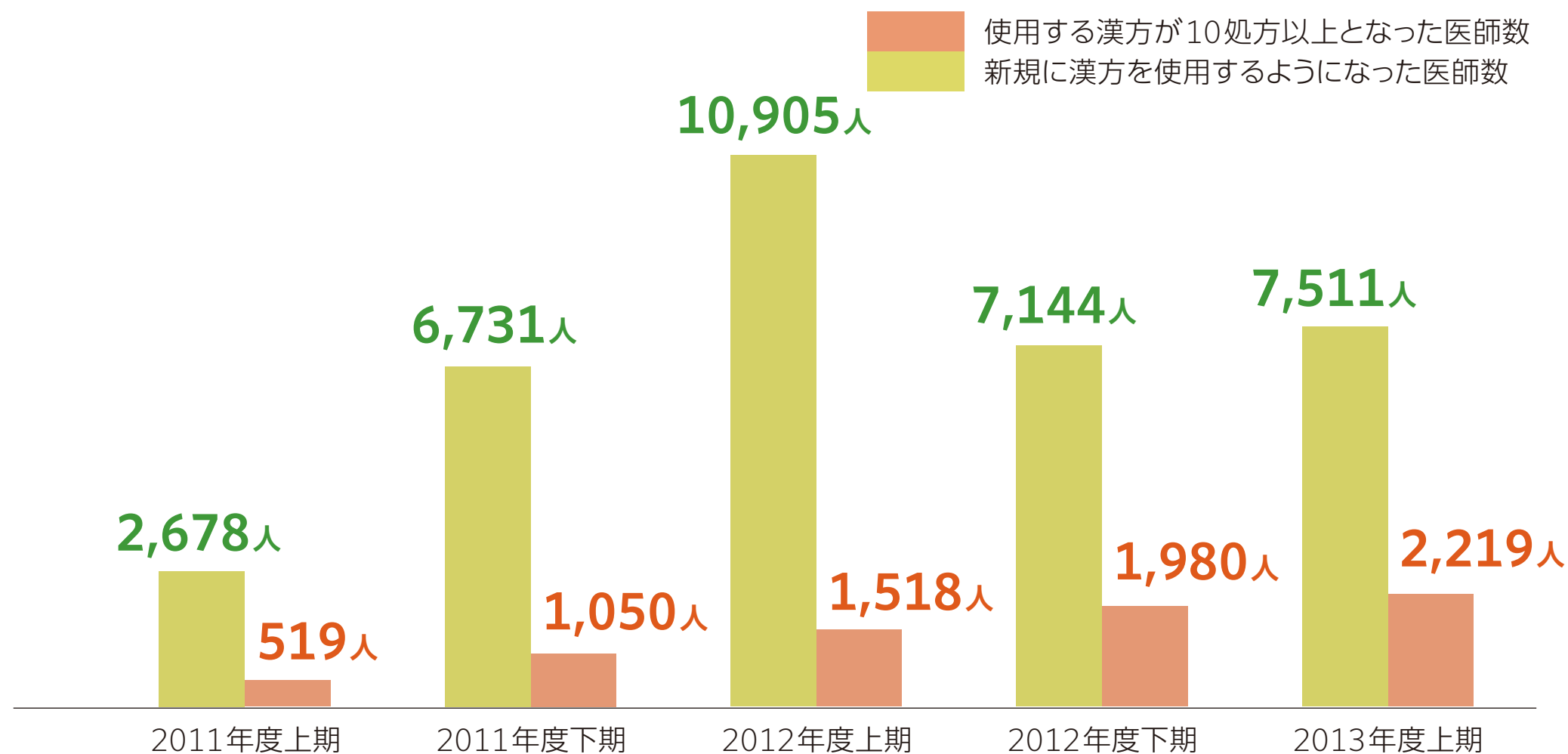


MR活動②

漢方医学セミナー



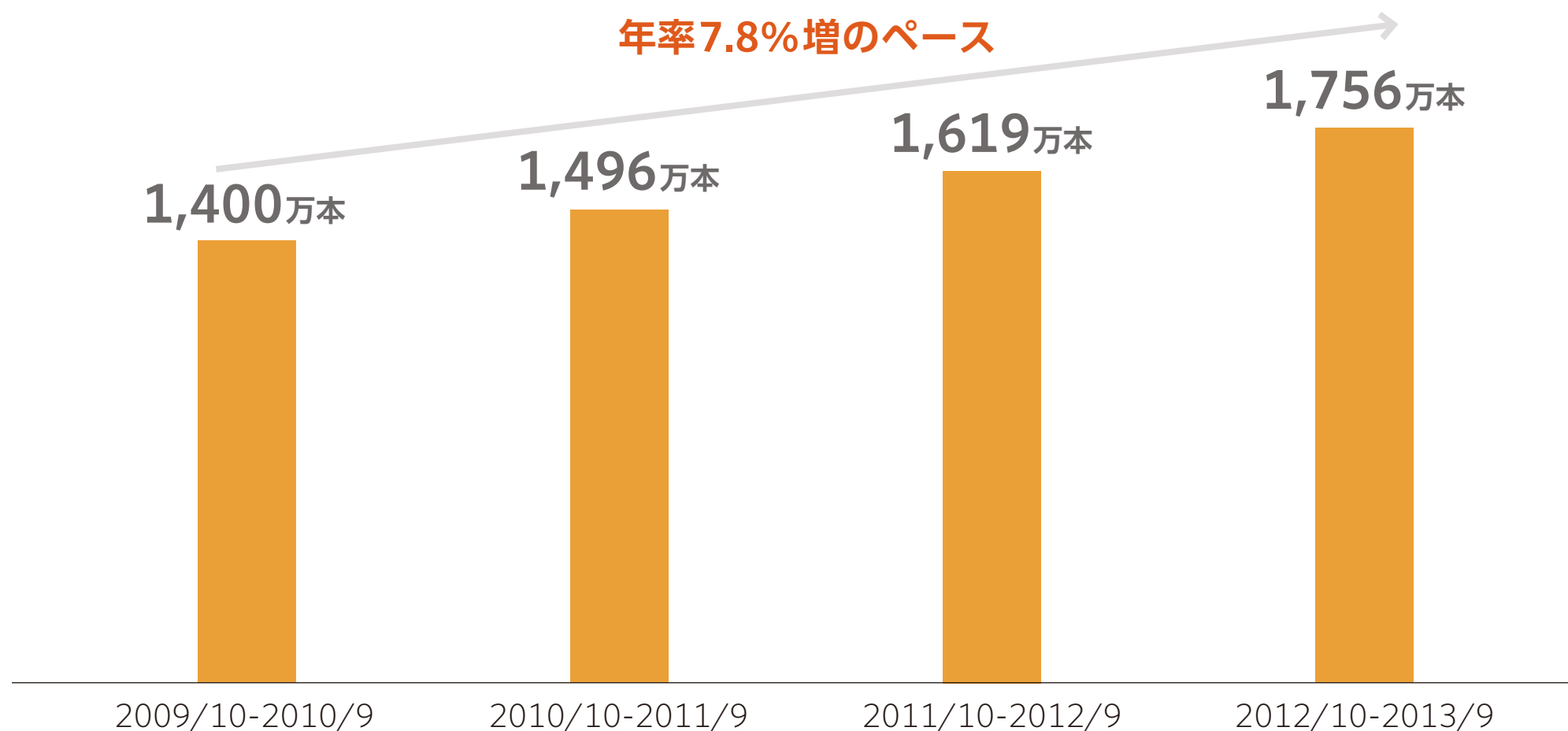
漢方処方医師数の増加（新規分）



直近12カ月の実売・数量推移

3年間で25.4%アップ

年率7.8%増のペース



生産におけるコスト構造改革の進捗

既存生産能力の向上および新生産技術の検討と導入により、「コスト構造改革」を進め、将来の製造原価率低減に資する基盤づくりを推進する

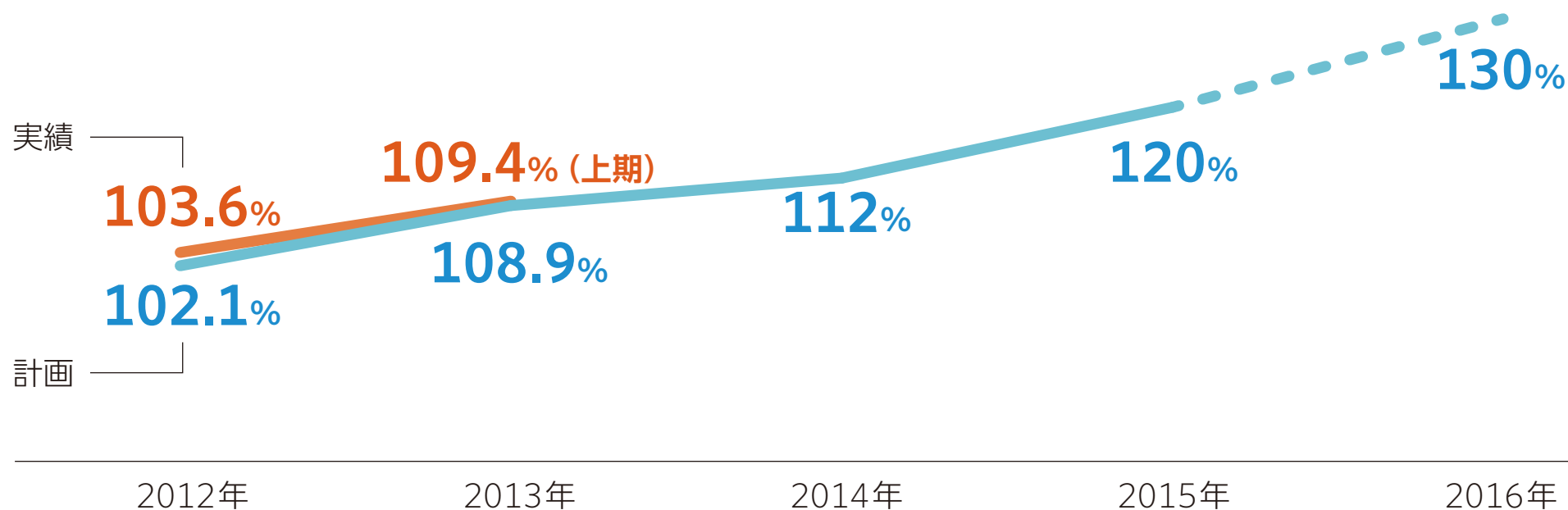
労働生産性 (対2011年度比)	2012年度は3.6%アップ 2013年度は8.9%アップを見込む
------------------	--------------------------------------

～ エキス粉末から顆粒・製品の製造にわたる生産能力の増強～

既設生産基礎能力の向上	改善活動の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・ 全工程において改善活動を継続実施
	稼働体制の変更	<ul style="list-style-type: none"> ・ 造粒工程は、2013年度より8時間3交替勤務から12時間2交替勤務へ ・ 包装工程は、2012年度より8時間3交替勤務から、全ライン中4割のラインで12時間2交替勤務を実施
新生産技術の検討と導入	省人化、省力化に対応した製造システムの構築	<ul style="list-style-type: none"> ・ 新エキス粉末製造システム → 2016年度稼働予定 [茨城工場] ・ 新造粒システム → 2013年度稼働 [茨城工場] → 2015年度稼働予定 [静岡工場] ・ 新包装システム → 2015年度稼働予定 [静岡工場] ・ ロボット技術の更なる活用 等

労働生産性の進捗状況 (対2011年度)

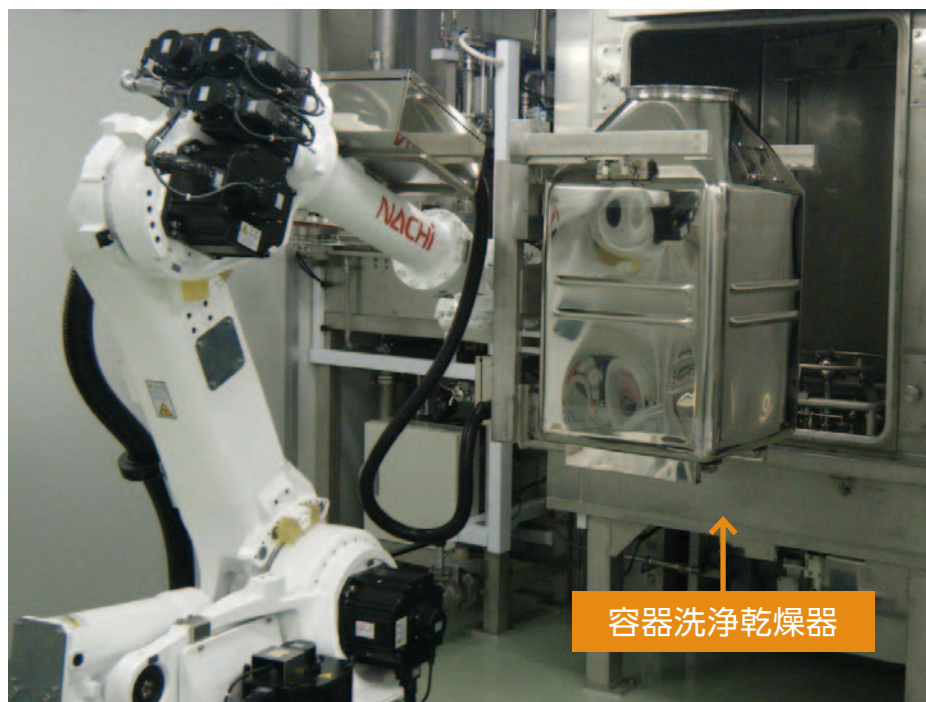
2012年度は2011年度比103.6%を達成、2013年度は108.9%の見込み



2015年度の労働生産性20%アップ (2011年度比) に向けて計画通り進捗中

新生産技術の導入（新造粒システム） 2013年11月稼動予定

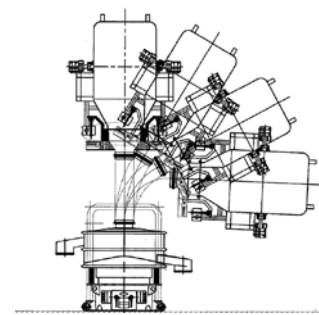
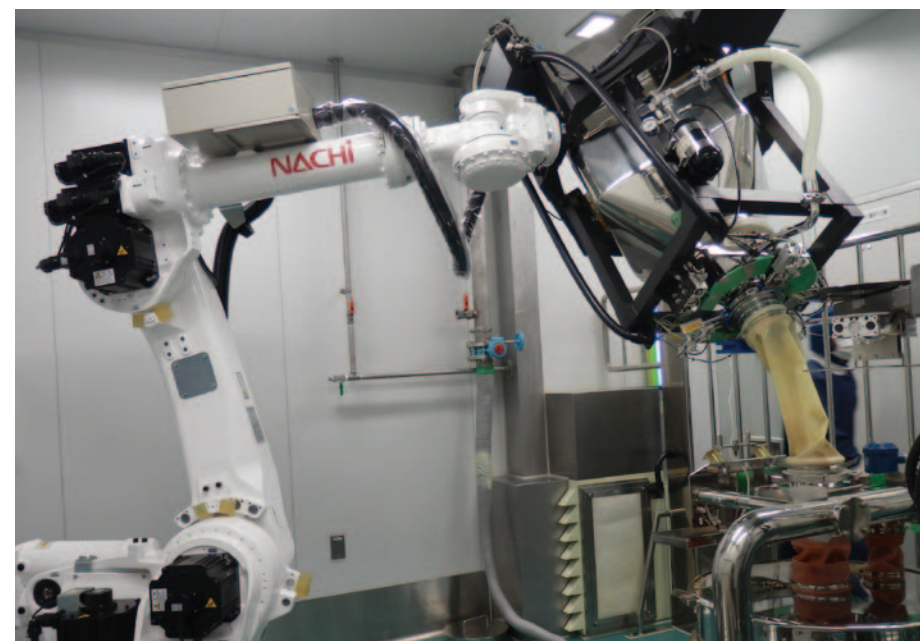
容器洗浄乾燥器



洗浄機投入から、容器反転、乾燥庫移動までロボットで行う

- 機内に搬送機構・反転機構が必要なくなり、メンテナンス性・清掃性が向上
- 機内の衛生管理が容易

エキス粉末反転排出装置



- 振動篩のレベルを検出し、容器傾け角を制御しながら排出
- 清掃性が向上

設備投資計画

*茨城工場の新規製造棟、静岡工場の新造粒包装棟における新技術導入を含めた製造システム構築の進捗状況等をふまえ、通期計画を105億円に変更した

		第1期中期経営計画				第2期	
		投資案件	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度以降
生産関連	静岡工場	新造粒包装棟など		☆	→	☆	
		新生薬倉庫		5月			
		S Dライン関連					☆
	茨城工場	新造粒棟		11月			
		新規製造棟など		☆	→	→	☆
	技術品質	生産技術・漢方製剤開発	→	→	→	→	→
STP (上海)	S D棟		10月				
生産その他	維持・更新など	→	→	→	→	→	
生薬関連	石岡	石岡センター再構築		12月			
	STM (深圳)	倉庫	3月				
	夕張	夕張ツムラ 建屋				☆	
	生薬その他	維持・更新など	→	→	→	→	→

☆稼働予定時期

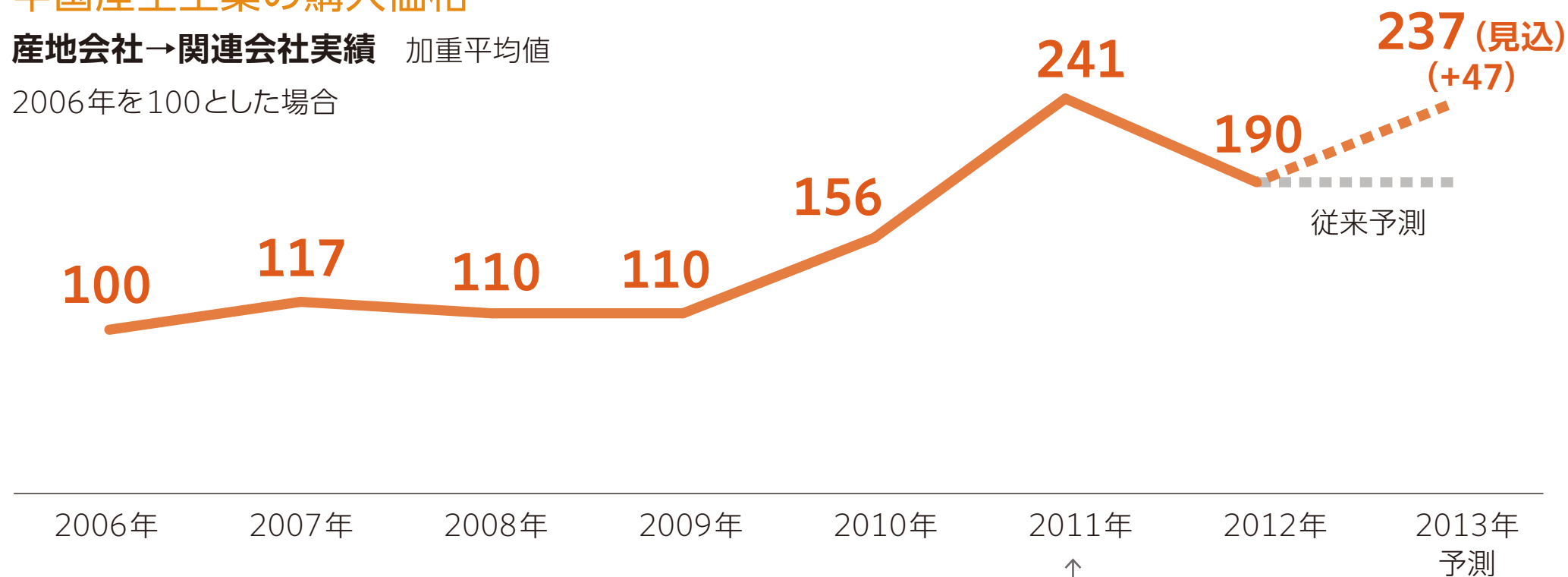
設備投資額： 2012年度実績	95億円	2013年度上期	24億円
		2013年度下期	81億円予定
2013年度当初計画	153億円	2013年度年間	105億円予定

生薬価格の状況①

中国産全生薬の購入価格

産地会社→関連会社実績 加重平均値

2006年を100とした場合



↑
①中国国内での生薬需要増、
②天候不順、③投機的買占め

生薬価格の状況②

2012年→2013年 中国産生薬価格動向

指数を47押し上げた要因→人参の購入量増と人参の価格上昇による

購入量増 (人参)	9 (20%)
価格上昇 (人参)	38 (80%)
合計	47 (100%)

中国からの購入100品目のうち上位20品目の価格の動向

購入数量上位20品目 (中国からの購入量の78%)	
上昇品目	8品目
下落品目	11品目
同等品目	1品目
合計	20品目

生薬価格の状況③

「人参」の産地仕入れ価格

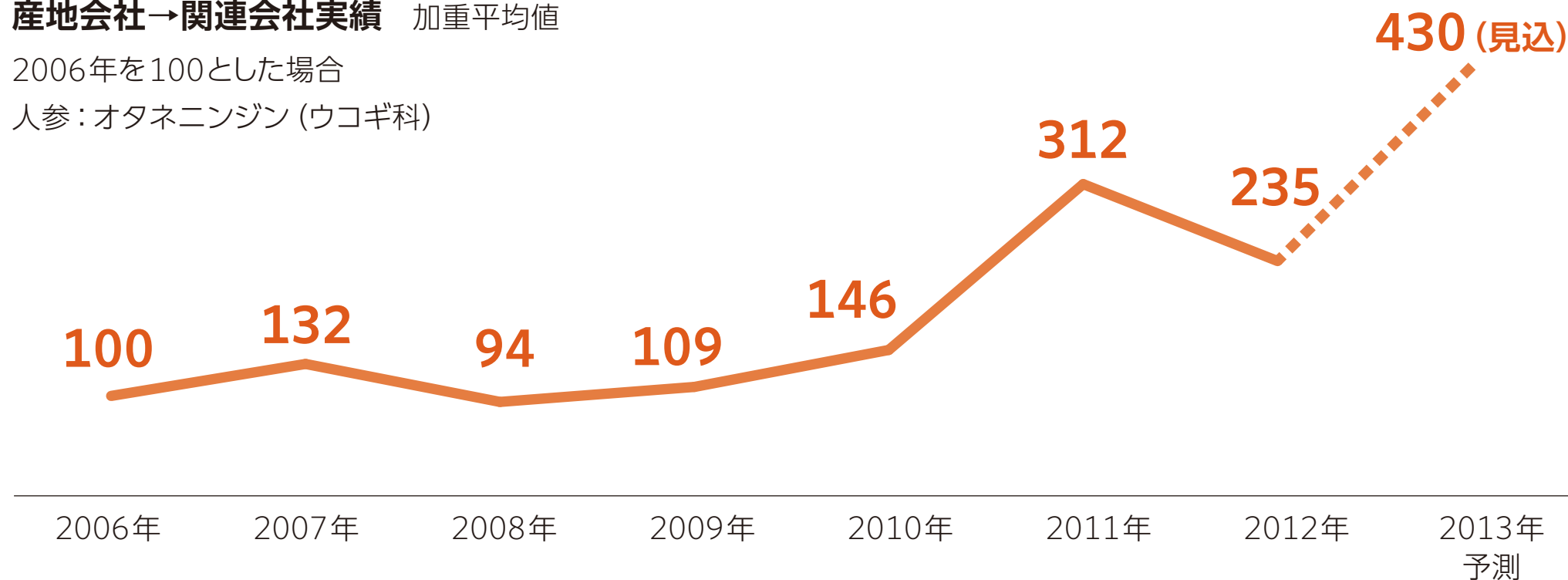
産地会社→関連会社実績 加重平均値

2006年を100とした場合

人参：オタネニンジン (ウコギ科)

上昇要因

- ・需要増：中国国内中成薬市場の拡大
- ・天候不順



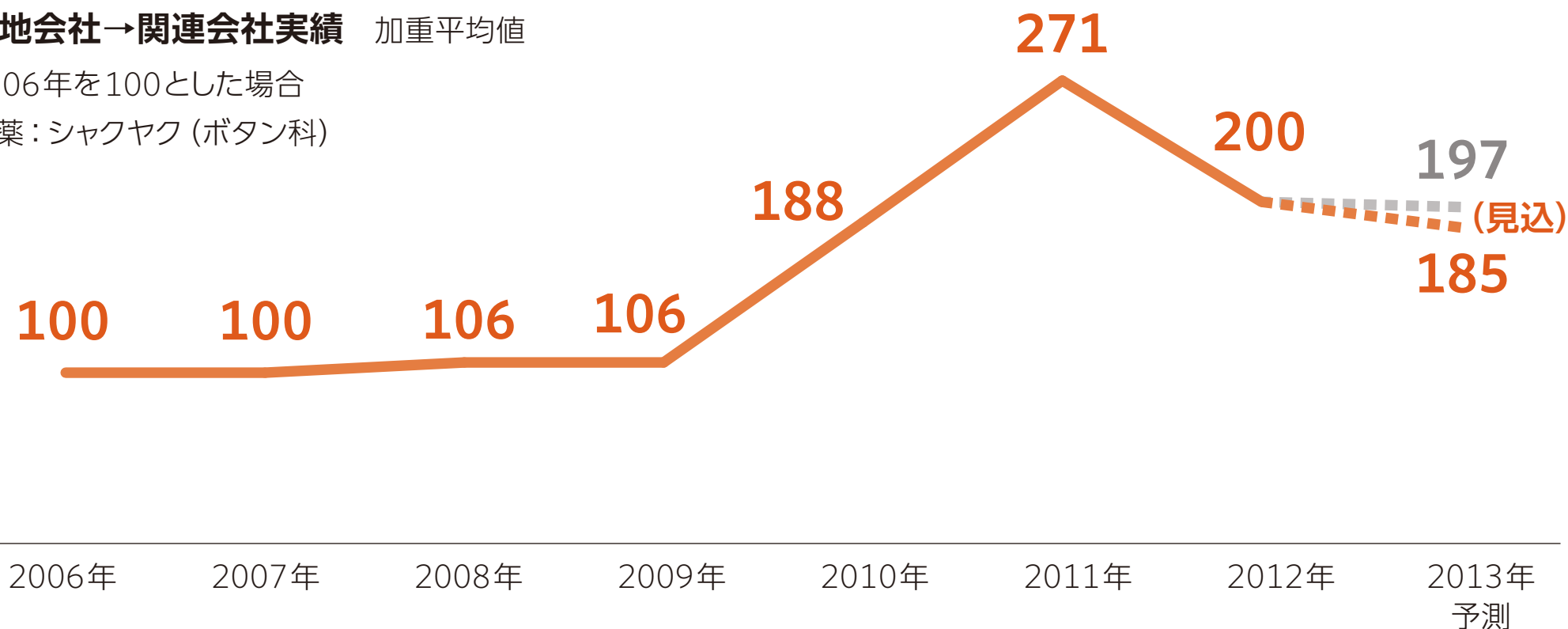
生薬価格の状況④

「芍薬」の産地仕入れ価格

産地会社→関連会社実績 加重平均値

2006年を100とした場合

芍薬：シャクヤク (ボタン科)



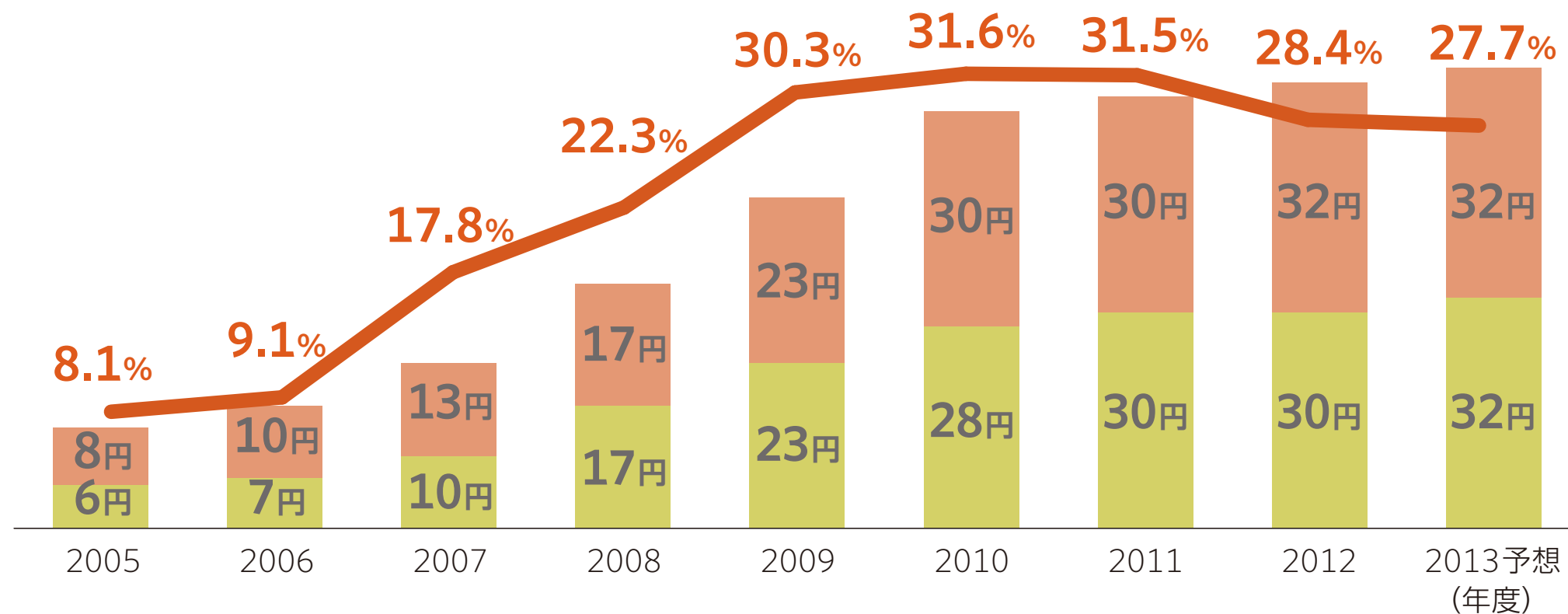
自社管理圃場*の効果により指数185まで減少


* 自社管理圃場：一定規模の栽培面積を有し、当社の直接的な栽培指導ができ、栽培にかかるコストの把握とそれに基づく生薬の購入価格設定が可能な圃場

株主還元

配当方針

- “漢方”が持続的に発展・成長するための事業投資を通じた企業価値向上
- 中長期の利益水準等を勘案し、安定配当を実施






2014年3月期業績予想

2014年3月期 業績予想

(百万円)

	2013年3月期	2014年3月期	比較増減	
売上高	105,638	112,000	6,361	6.0%
営業利益	23,124	24,700	1,575	6.8%
経常利益	24,310	25,100	789	3.2%
当期純利益	15,373	16,300	926	6.0%

	2013年3月期	2014年3月期
営業利益率	21.9%	22.1%
配当金 (1株当たり)	62円	64円
EPS	217.98円	231.12円
ROE	14.1%	13.3%



參考資料

医療用漢方製剤 売上高トップ10

は育薬処方 (百万円)

順位	処方名	主な効能・効果	2013年度 2Q	2012年度 2Q	比較増減	
1	大建中湯	腹痛・腹部膨満感	4,811	4,460	351	7.9%
2	補中益気湯	病後の体力増強・食欲不振	3,551	3,414	137	4.0%
3	抑肝散	神経症・不眠症	3,267	3,000	266	8.9%
4	六君子湯	胃炎・消化不良・食欲不振	3,258	3,021	236	7.8%
5	芍薬甘草湯	筋肉の痙攣を伴う疼痛	2,127	1,947	179	9.2%
6	加味逍遙散	冷え症・月経不順・更年期障害	2,126	2,060	66	3.2%
7	牛車腎気丸	下肢痛・腰痛・しびれ・排尿困難	1,900	1,894	6	0.3%
8	麦門冬湯	咳・気管支炎・気管支喘息	1,733	1,681	52	3.1%
9	柴苓湯	急性胃腸炎・むくみ(浮腫)	1,726	1,710	15	0.9%
10	防風通聖散	高血圧の随伴症状、肥満症、むくみ、便秘	1,256	1,336	▲80	▲6.0%
—	半夏瀉心湯	醗酵性下痢・神経性胃炎・口内炎	583	535	47	9.0%
医療用漢方製剤129処方計			49,857	48,330	1,527	3.2%
育薬5処方計			13,821	12,912	909	7.0%

育薬処方のエビデンス構築状況 (DB-RCT & 安全性)

処方名	対象疾患・研究名称	実施団体・代表施設等	症例集積期間	公表状況等	備考
TJ-100 大建中湯	大腸癌術後腸管麻痺	北里大学 他 (DKTフォーラム大腸班)	2009年1月～2011年6月	日本外科学会総会 (2013年4月:福岡)	
	大腸癌術後腸管麻痺 (付随研究)	藤田保健衛生大学 他 (DKTフォーラム臨床薬理班)	2009年1月～2011年6月	日本外科学会総会 (2013年4月:福岡)	
	肝臓癌術後腸管麻痺	釧路労災病院 他 (DKTフォーラム肝外科班)	2010年2月～2011年5月	JDDW ¹ 2012 (2012年10月:神戸) 米国肝臓病学会 (2012年11月:ボストン)	
	胃癌術後腸管麻痺	大分大学 他 (DKTフォーラム胃食道班)	2011年1月～2012年12月	解析中	
	JAPAN-PD STUDY (膵臓癌術後腸管麻痺)	和歌山県立医科大学 他 (ECRIN)	2012年8月～2014年8月	解析中	
	クローン病	慶應義塾大学 他	2012年6月～2014年5月	症例集積中	
TJ-43 六君子湯	機能的胃腸症	慶應義塾大学 他	2011年2月～2013年2月	厚生労働省 HPに概要あり	科研費
	G-PRIDE STUDY (PPI抵抗性胃食道逆流症)	大阪市立大学 他 (ワックスマン財団)	2011年8月～2012年9月	DDW ² 2013 (2013年5月:オーランド)	
TJ-54 抑肝散	統合失調症	島根大学 他	2011年3月～2012年9月	米国生物学的精神医学会議 (2013年5月:サンフランシスコ)	科研費
	BPSD	東北大学 他	2011年2月～2013年1月	厚生労働省 HPに概要あり	科研費
TJ-107 牛車腎気丸	GENIUS STUDY (FOLFOX末梢神経障害)	九州大学 他	2011年10月～2012年5月	試験中止	科研費
TJ-14 半夏瀉心湯	HANGESHA-C STUDY (大腸癌化学療法に伴う口内炎)	大阪医療センター 他 (ECRIN)	2010年10月～2012年5月	ESMO ³ (2012年10月:ウィーン) 日本癌治療学会 (2012年10月:横浜)	
	HANGESHA-G STUDY (胃癌化学療法に伴う口内炎)	神奈川県立がんセンター 他 (ECRIN)	2010年10月～2012年9月	ECCO ⁴ (2013年10月アムステルダム)	

TJ-100 大建中湯	副作用発現頻度調査	—	2010年4月～2012年3月	Progress in Medicine誌 掲載 (2012年9月) 添付文書改訂 (2012年11月)	
TJ-54 抑肝散	副作用発現頻度調査	—	2012年10月～2014年3月	実施中	

1. Japan Digestive Disease Week (日本消化器関連学会週間) 2. Digestive Disease Week (米国消化器病週間) 3. European Society for Medical Oncology (欧州臨床腫瘍学会)
4. ECCO: European Cancer Congress

本資料に関するお問い合わせ先

株式会社ツムラ
コーポレート・コミュニケーション室
IR推進グループ
TEL : 03-6361-7101

見通しに関する注意事項

- 本発表において提供される資料ならびに情報は、いわゆる「見通し情報」を含みます。これら見通しを実現できるかどうかは様々なリスクや不確実性などに左右されます。従って、実際の業績はこれらの見通しと大きく異なる結果となりうることをご承知おきください。
- 日本ならびにその他各国政府による医療保険制度や薬価等の医療行政に関する規制が変更された場合や、金利、為替の変動により、業績や財政状態に影響を受ける可能性があります。
- 現在発売している主要製品が、万が一製品の欠陥、予期せぬ副作用などの要因により、販売中止となったり、売上が大幅に減少した場合、業績や財政状態に大きな影響を及ぼします。